科目ナンバリング	G-LAS13 80016 LJ90						
授業科目名<英訳>	災害時の避難生活支援 Life and health support during Disaster Evacuee Life			担当者所属職名・氏名	医学研究科　教授　長谷川　学 医学研究科　教授　今中　雄一		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	健康・医療系		使用言語	日本語	
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 8/21～23＋オンデマンド	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

本講義は、災害時・災害後の避難生活を支える実務を、公衆衛生の視点で体系的に学ぶ。倫理と説明責任の“軸”としてSphere（人道憲章／権利保護の原則／行動規範）およびCHS（Core Humanitarian Standard, 2024改訂：質と説明責任）を土台に、日本の保健医療福祉調整本部を中心とした調整アーキテクチャ（被災都道府県－厚労省－市町村－避難所）を理解する。
技術章はWASH／給水を入り口に、最低基準→基本行動→指標→ガイダンスの構造で読み解き、公平アクセス・安全・ジェンダー配慮・良心的価格を踏まえた避難所運営を設計する。
さらに、J-SPEEDによる迅速アセスメント・報告、住民参加・苦情受付、基準未達時のギャップ説明と緩和策、撤収（出口）戦略までを含むPDCAを実践的に身につける。

目的
・避難生活における主要な健康リスク／社会的リスクを系統的に把握し、優先度を付けて介入を設計できる。
・ICFとトリアージの観点から、慢性疾患・障害・妊産婦・乳幼児・高齢者等の要支援者抽出と継続支援計画を立案できる。
・Sphere／CHSを現場の共通言語として説明し、意思決定と説明責任に適用できる。
・日本の保健医療福祉調整本部の役割と関係機関連携を把握し、ニーズ×資源のマッチングと撤収（出口）基準を含む運用設計ができる。
・技術章の最低基準／基本行動／指標／ガイダンスを文脈に即して解釈し、WASH（給水）を例に公平性・安全・ジェンダー配慮・価格を組み込んだ計画に落とし込める。
・感染対策、WASH、栄養、メンタルヘルス、リハビリテーションを統合した避難所オペレーション計画を作成できる。
・J-SPEED等を用いた迅速アセスメント／報告、情報共有、リスクコミュニケーション、住民参加／苦情受付の仕組みなどを構築・運用できる。
・自治体・医療・福祉・ボランティアとの協働体制を設計し、資源配分とロジスティクスを最適化できる。
・活動記録と評価を基にPDCAを継続的に回し、知見を次の対応へ継承できる。

日時:2026年8/21(金)～8/23(日)の13コマ集中講義のうちの6コマ＋オンデマンド講義及び、ハイブリッドまたはオンデマンド講義 2コマ
★「災害時の保健医療福祉における情報管理・活用」と両方の受講必須。
★「健康危機管理セミナー」も受講することが望ましい。

[到達目標]

災害時・災害後の避難生活の望ましいあり方・支援に係わる様々な知見、考え方、施策・政策、課題、実践、解決手段、研究開発等について学ぶ。

災害時の避難生活支援(2)へ続く↓↓↓

災害時の避難生活支援(2)

避難所支援の実践の体系をも身につけることを目標とする。
＊災害時に自らの命と健康を守るための行動がわかる。
＊災害対応に関する概念、用語、原則がわかる。
＊人々の命と健康を守るための行動や避難所運営のポイントがわかる。
＊避難所での要配慮者への支援のポイントがわかる。

[授業計画と内容]

第1回・第2回事前学習動画(オンデマンド）
①「がまんさせない支援_スフィア基準」
講師：原田 奈穂子　岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域看護科学分野
1997年発足のSphereを軸に、人道憲章・権利保護の原則・行動規範およびCHS
（必須基準）を概観し、被災者の尊厳を守る支援の共通言語と現場のPDCA運用の
基盤を理解するものである。参加・苦情対応・情報提供など、説明責任の実装を重視する。
②「Sphere Handbook 技術的な章」
講師：千島　佳代子　国立健康危機管理研究機構　危機管理運営局　DMAT事務局
技術章を「最低基準→基本行動→指標→ガイダンス」で読み解き、給水を例に実務へ落とし込むための設計原則を学ぶ。
③事前学習動画「保健医療福祉支援者に必要な心構え」
講師：千島　佳代子　国立健康危機管理研究機構　危機管理運営局　DMAT事務局
被災都道府県の災害対策本部ー保健医療福祉調整本部と厚労省・市町村・支援団の連携構造を俯瞰し、接続先の特定から撤収基準までを含む運用設計の要点を解説するものである。判断の軸としてSphere／CHSを適用し、説明可能な支援を仕組み化することを目的とする。

第3回 健康を保持する避難時生活の実現 ～スフィアの敵とは？災害関連死とは？
講師：根本 昌宏　日本赤十字北海道看護大学　災害教育センター
（ハイブリッドまたはオンデマンド／日程未定）
・Sphere基準を土台に、トイレ・食・就寝・保温を核とするTKB＋Wの視点で避難所・ 在宅避難の“ 生活環境そのもの ”を改善し、関連死を減らす実践力を養う。能登半島地震や熊本地震の事例を用い、避難行動要支援者への個別避難計画、季節（酷暑・寒冷）への備え、エコノミークラス症候群・低体温・CO中毒・慢性疾患増悪・メンタルヘルスなどの主要リスクに対する具体策を身につける。

第4回～9回
講師：
原田 奈穂子 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学研究科 教授
香田 将英 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療共育推進オフィス特任准教授
千島 佳代子　国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT事務局
佐々木 典子／長谷川 学／今中 雄一
8/21(金)3・4限、22(土)3・4限「自然災害/感染対応マネジメントワークショップ」
行政・医療・介護等の現場で求められる危機対応力を高めるために
災害時の被災地域や避難所、対策本部を想定し、安全確保、状況把握、
多機関連携、指揮調整などを実践的に学ぶ。
8/22(土)1・2限 「災害時の避難生活支援」ワークショップ

災害時の避難生活支援(3)へ続く↓↓↓

災害時の避難生活支援(3)

[履修要件]

・80%以上の出席を必須とします。
・積極的な議論への参加を重視します。
社会健康医学系専攻を含む、学内の全ての院生。

[成績評価の方法・観点]

主体的・積極的な参加（50%）および最終レポート(50%)で評価する。
【素点(100点満点)評価】

[教科書]

CHS教員で共同分担著 『健康危機への備えと対応 ―パンデミックと能登半島地震を踏まえた社会とシステムのあり方』（医学のあゆみ 2025）

[参考書等]

（参考書）
（参考書）
Sphere Handbook http://www.spherestandards.org/handbook/editions/

[授業外学修（予習・復習）等]

予習、復習にとどまらず、自律的学習が望まれる。
参考書の該当部分やLMSにアップされた資料を読み、 関心のもてる事項は各自理解を深めること（予習・復習とも）。

[その他（オフィスアワー等）]

※やむを得ず相当の理由等により、 対面授業をオンライン授業等へ変更する可能性があります。

問い合わせ等は、
CHS事務局 chs-office@umin.ac.jp **へご連絡ください。**
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。
※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

[主要授業科目（学部・学科名）]